

IPO銘柄 ディーエムソリューションズ (6549・JASDAQ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹証券
6549	100株	公募: 10.00万株 売出: 9.70万株 (OA2.90万株)	2,300円~2,500円 (17.4倍)	SBI証券

■ 日程



企画から発送までワンストップのDM事業など展開

■ 事業内容

ダイレクトメール事業、インターネット事業を手掛ける。ダイレクトメール事業は企画からデザイン、印刷、封入同封・同梱、発送までワンストップソリューションとして提供。デザイン室、メールセンター、ロジスティクスセンターを自社で持ち、提案型のソリューションとして事業展開している。インターネット事業の主要サービスには、SEO (検索エンジン最適化)、コンテンツマーケティング、運用型広告、Webサイト制作などデジタルマーケティングサービス、メディア運営のパーティカルメディアサービスがある。「ウォーターサーバー比較」、妊活・妊娠・出産・育児情報サイト「たまGoo!」など、自社メディア運営も手掛ける。17年3月期第3四半期累計 (16年4~12月) の売上高構成比はダイレクトメール事業が87.3%、インターネット事業が12.7%。

■ 特徴

ダイレクトメールは実在性、保存性、一覧性が見直されており、通信販売系の業種ではインターネットと組み合わせる動きが出ている。顧客数は着実に増加しており、また継続率が約95%と高く、顧客獲得がそのままストック案件の増加につながっている。インターネット通販市場の拡大に伴い、現在は宅配便など小型貨物の取扱い量が増加中。同社は自社ロジスティクスセンターを拠点に、商品の受注から発送までを一貫して手掛けるフルフィルメントサービスも展開している。

アナリストコメント

■ 定量分析

18年3月期の非連結経常利益は前期比3.5%増の2億7,300万円を計画している。ダイレクトメールの市場はほぼ横ばいで推移するが、営業体制の拡充と価格競争力を武器に売上を伸ばしている。フルフィルメントサービスの育成で中期的な成長を目指していく。

■ 定性分析

ダイレクトメールの市場規模はほぼ横ばいの推移が続いており、成長イメージはそれほど強くない。ただ、IPO案件への投資家の関心が高まっている状況下で事前人気は非常に高く、仮条件の上限は目論見書記載の想定発行価格2,170円を大きく上回る水準に決まっている。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は5.65億円。軽量級で、かつベンチャーキャピタル保有株もないため、需給状況は非常に良好となっている。15日にIPOするビーブレイクシステムズが人気を集めれば、同社株にも初値買いがなだれ込んできそうだ。(小泉健太)

■ 類似企業

ディーエムソリューションズ (6549・JASDAQ)	予想PER17.4倍 (仮条件上限)
ディーエムエス (9782・JASDAQ)	予想PER7.0倍
ショーエイコーポレーション (9385・JASDAQ)	予想PER7.5倍

■ 引受証券

SBI証券、野村証券、みずほ証券、岩井コスモ証券、エイチ・エス証券、エース証券、岡三証券、高木証券、水戸証券、藍澤証券、SMBCフレンド証券、極東証券、東洋証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
16年3月期(実績)	7,626	29.0	111	▲21.8	70	▲22.2	64.3	—
17年3月期(実績見込み)	9,129	19.7	264	2.4倍	170	2.4倍	154.7	—
18年3月期(会社予想)	10,260	12.4	273	3.5	169	▲0.4	143.9	—

※ 17年2月に株式分割(1株→1000株)を実施。16年3月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
15年3月期	1,102	1807	720	73	653.7	39.9	13.3
16年3月期	1,102	2306	791	73	718.1	34.3	9.4

※ 15年3月期および16年3月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	花矢 卓司	471,000	36.83
2	福村 寛敏	341,000	26.66
3	松本 和久	160,000	12.51
4	アセットインクリーズ	130,000	10.16
5	ディーエムソリューションズ社員持 株会	35,000	2.74
5	小林 剛司	35,000	2.74
5	勝山 純一	35,000	2.74
8	在川 浩太	30,000	2.35
9	尾梶 敬祐	14,000	1.09
10	吉田 慎一郎	11,000	0.86
10	松尾 賢治	11,000	0.86

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	花矢 卓司
取締役副社長	福村 寛敏
取締役(インターネット事業部長)	小林 剛司
取締役(ダイレクトメール事業部長)	勝山 純一
取締役(人事総務部長)	在川 浩太
常勤監査役	安田 仁裕
監査役	齋藤 哲男
監査役	高見 之雄

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering) : 新規株式公開。

※2 ブックビルディング : 引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。